

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500178	事業の開始年月日	平成22年2月1日	
		指定年月日	平成22年2月1日	
法人名	社団法人 伸こう福祉会			
事業所名	グループホームクロスハート南・横浜			
所在地	( 〒232-0011 )			
	神奈川県横浜市南区日枝町1-5			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年12月8日	評価結果 市町村受理日	平成24年3月2日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○「全てのよきものを人生の先輩たちと後輩たちに捧ぐ」を基本理念とし、スタッフひとりひとりが基本理念を理解して業務に取り組めるように、個人ごとにハンドブックにより理念の浸透をさせてうえでケアを行なっている。○地域交流の一環として地域の小学校との交流をおこなっている。小学校に福祉について教えに行ったり、逆に子供たちがホームに来てくれたら、行事へ誘ってくれ、入居されている方と交流をしている。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年1月17日	評価機関 評価決定日	平成24年1月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇理念及び運営方針の共有を目的に、毎年4月全職員に「ハンドブック」を配布してミーティングを行い、理念とその年度の方針を確認して実践に活かしている。                  ◇入浴には利用者の好みの湯温と使用時間に対応するなど、利用者一人ひとりの「個別ケア」をモットーに日々の暮らし、趣向を最優先にきめ細かい支援を徹底している。                  ◇警備保障会社と契約して、災害時や事故時用に館内放送の設備を取り付け、また館内4か所に設置したモニター画面で緊急時でも、直ちに対応できるようにしている。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇ホームの共有部分の飾りつけは、法人理事長の方針により絵画やシンプルな置物で大人の落ち着いた雰囲気を醸し出している。                  ◇食事は従来の外部業者に替え、週6日管理栄養士によるメニューとした結果、利用者の栄養状態、健康状態が向上した。残りの1日はメニューに利用者の好みを反映して、買い物・調理も職員と一緒にしている。                  ◇地域の日枝小学校と七夕・ハローウィン・運動会などで交流している。今後は児童に「認知症」を理解してもらうため、サポーター講座を企画している。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	クロスハート南・横浜
ユニット名	A棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人理念は事務所に掲示し、月1回のミーティングにて理念や経営計画書を読み合わせを行い理念を共有できるように取り組んでいる。	・理念及び運営方針の共有を目的に、毎年4月全職員に「ハンドブック」を配布して、スタッフ会議で、理念とその年度の方針を確認して実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。去年に比べて地域の行事へ参加したりすることで地域の一員として協力できることは行なっている。また、逆に地域の方から色々とサポートをしてもらっている。	・町内会の行事（餅つき、夏祭り等）や、地域の小学校の運動会、クリスマスパーティに参加している。 ・寒い時期に、地域の方から手編みのマフラーがプレゼントされたり、散歩時には地域住民から利用者への声かけがあるなど、地域とは日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催している。また、今後、認知症サポートキャラバンの養成講座を開く予定。管理者がその為の資格を取得したので、今後、行なっていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催をしている。その中での意見をサービスの改善に役立てている。	・運営推進会議は2か月ごとに開催し、参加者には事前にアンケートを用紙を配布して検討する課題を提出して貰っている。 ・会議での提案を基に「事故緊急マニュアル」と「夜間緊急マニュアル」を整備した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ定期的にお誘いをしている。市町村の都合で参加がないのは残念だが行なっている。	・2か月ごとの運営推進会議の議事録を、南区役所の担当者に渡して会議の結果を報告している。 ・区の担当者とは、日常の運営状況を報告するなど連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修の中で身体拘束の基礎知識についてスタッフに対して教育をおこなっている。	・職員入の職時他、スタッフミーティングで、身体拘束をしないケアの実践について研修している。 ・利用者家族の了解を得て、身体への危険のある利用者1名の居室にセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の中で虐待の基礎知識についてスタッフに対して教育をおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会などがあれば管理者、スタッフが参加を行なえるようにする。以前、管理者が成年後見人の研修を受講したことがある。入居されている家族から相談があった際には後見人制度の存在についてお伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をおこなっている。わからないことはいつでも相談できるように相談窓口がもうけてあるので、いつでも確認できるよう体制が取れている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情、相談窓口を設けている。家族会の開催などにより直接話しをできる機会を設けている。また、玄関脇にご意見箱の設置を行なっている。	・食事会を兼ねた家族会を年1回開催して開催し、直接家族から意見を聞いている。 ・利用者全員の家族から、順次推進運営会議に参加してもらい、意見を出してもらうよう計画している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームミーティングやユニットミーティングにおいてスタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。	・管理者と職員間、職員同士の信頼関係ができていますので意見が言い易い状況にある。 ・職員からの業務改善などにつながる提案は、その都度取り入れて業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時の面接で、個々の職員の状況を把握している。福利厚生を充実させ職場環境の整備に努めている。ソウエルクラブの加入など。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を積極的に勧めている。そのための業務調整を行っている。新入職の職員に対してはOJT制度を導入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市のグループホーム連絡会の参加をしている。情報や意見の交換を通してサービスの質の向上に勤めている。また、定期的に発信される研修に職員が参加をしている。交換研修など。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に必ず訪問調査を実施し、不安や要望をお聞きしている。またサービス開始に当たっては、無理なくスタッフや他のご入居者との関係が構築できるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学やご相談の段階で困っている事や要望などをお聞きし答えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご見学やご相談の時に現在の状況や困っている事をお聞きし、当ホームで行える支援や、他のサービスの説明や情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と家事や買い物、外出等を行う事により馴染みの関係を築いていく。また談話やレクレーションを一緒に行うことで、関係をより深めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時やイベントの時にご入居者と御家族だけの時間を設けるようにしている。また、常にご状態の報告をし支援についての相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅への外出やお墓まいり、馴染みの方の訪問などご家族様の同意を得られれば可能な限り対応しています。	・事業所に利用者の知り合いが訪ねて来る他、個別に手紙を出したり電話をかけるなど、家族の同意をえて、馴染みの関係の継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションのとり易い席の配置やレクリエーションなどで無理なくご利用者同士の関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームを訪問していただけよう声を掛けている。また他の施設への入居へ向けての支援もしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護サービス計画書作成時にご本人、及び御家族の意向を確認し希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。	・会話ができる利用者とは日常の会話から、意向の把握の困難な利用者の場合は、家族との連絡を密にとり、また表情やしぐさを観察して利用者の意向に近づく支援に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に「暮らしの情報シート」を家族に記入して頂き、生活歴や嗜好、生活の状況について把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居してからの一定期間は「24時間生活シート」を記入し状態の把握をしている。日常の生活を通じて、個々の御入居者のご状態や有する力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お1人につき3ヶ月に一度（必要時は適宜）ケアカンファレンスを実施し、ご入居者や御家族、職員、その他関係者の意見を参考に介護計画書の作成をしている。	・利用者ごとに通常3か月ごとにケアカンファレンスを開き、本人や家族の意向を入れて、ケアプランを作成している。 ・通常は3か月毎に介護計画をチェックし、状況によっては、その都度見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「生活の記録」「健康状態の記録」「申し送りノート」などの記録を活用し、スタッフ間の情報共有や介護計画の作成に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に施設で対応できる範囲では可能な限り対応できるように留意してサービスを提供している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物、地域のボランティアグループの受け入れを行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の往診が1ヶ月に2回あり、書面及び口頭での報告や話し合いを行い適切な医療が受けられるよう支援している。嘱託医以外（入居前からのかかりつけ医）の診療を受けている方もあり。 家族の同席は自由。	・入所時、利用者・家族の希望を確認し、かかりつけ医を受診する場合の通院は家族にお願いしている。現在、「泌尿器科」に利用者1名が家族と通院している。 ・通常は嘱託医により、月2回の往診を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により週1回の訪問看護がある。定期的に日常の御様子を報告し健康管理に役立てている。また、24時間のオンコール体制をとっているのでご入居者に変化があったときは適宜報告、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族を通して、またお見舞いに伺った時などに情報交換、状態把握をしている。退院時には医師との話し合いを行い退院後のサービス提供に活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書内の「容体悪化時の施設対応についてのご説明」にて説明をしている。状態の変化が合ったときには、訪問看護師、医師を交え早い段階から話し合いを行い方針の共有に勤めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「重要事項説明書」に方針と支援できる内容を明記して、入居時家族に説明して了解を得ている。</li> <li>・これまで重度化や終末期を迎えたケースはないが、今後は家族や医療関係者と話し合い方針を立てて対応する方針である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、利用者が重度化する可能性もあり、事前に年間計画をたてて職員の研修や職員間のチーム作りを実施することが期待されます。</li> </ul>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームミーティングでの研修や訪問看護師からの指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（内1回は夜間想定）の消防訓練をおこなっている。今年度は地域の方が参加をしていただき、避難誘導を手伝ってもらえた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回、地域住民の参加を得て、昼間、夜間を想定した避難訓練を実施している。</li> <li>・備蓄は飲料水や保存食がある。今後は法人が各事業所の備蓄状況を再検討する予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄に関しては、職員で何が必要かを検討しリストアップして、定期的に備蓄状況をチェックされることが期待されます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に対して御家族（ご入居者）に対して個人情報の取り扱いについて説明のうえ書面で誓約をおこなっている。スタッフに対しても個人情報の研修を行なっている。	・職員は年1回以上プライバシー確保に関する研修を受け、利用者の尊厳を遵守した支援を行っている。 ・利用者へは「・・さん」付けで呼びかけている。また、トイレ誘導などの声掛けもプライバシーに配慮しさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でスタッフだけが決めるのではなく利用者様が意思決定できるように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールはあるが、ご入居者の状況を優先してケアを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に沿って理美容のサービスの提供。 外出できない方は、ホームスタッフ（理容師免許有り）がホーム内で理美容のお手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的なイベント食の計画を行ない、利用者様に食を楽しむイベントの提供ができるようにしている。また、調理、後片付けなどもその日の状態に応じて一緒におこなっている。	・毎週月曜日には、職員と利用者が献立を作り、食材の買出しを行って調理している。利用者一部は調理や配膳などを手伝っている。 ・年3～4回ドライブも兼ね郊外のレストランで食事をする機会を設けて楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好や状態に合った食事を提供している。食事量が少ない方に補食を提供したり水分量の把握をしたり必要な栄養、水分量が確保できるよう努めている。定期往診時に栄養士さんが一緒に来て頂けるのでアドバイスを取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は食後の口腔ケアをおこなっている。隔週訪問歯科診療があり、歯科医師を連携をして口腔内の清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方は排泄表をつけ、排泄パターンの把握に努め、できるだけ失敗せずトイレで排泄ができるように支援している。その他の方は適宜声掛けをし確認している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェックで利用者の排泄パターンを把握し、タイミングを見て誘導している。また、利用者のプライバシーを尊重し、さりげなくトイレに誘い、排泄の失敗を防ぐよう支援している。</li> <li>・支援を行うことで、パッドの交換回数が減少した利用者もいる。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や腸内環境を整える食材の提供をするなど工夫している。水分摂取の苦手な方にゼリーを用意したり、本人の嗜好を探りながら、水分が摂れるような工夫をしている。また排泄表で確認を取りながら下剤の使用をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上は入浴していただくよう心がけている。入浴時間などは時に決めず、支度の出来るときに声掛けを行いご自分の意思で入浴していただけるよう努めている。入浴が嫌いな方にはその人にあった声掛けをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴時間は毎日、原則11時から17時の間で、週2回は入浴している。利用者ごとにお湯を交換し、利用者にあった湯温と入浴時間で対応している。また、原則同性介助で利用者同士の入浴にも対応している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者のペースに合わせて誘導、声掛けをおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成しいつでも確認できるようにしている。特に副作用の出やすい薬などは申し送りやミーティングで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を活かした役割を持っていただけるよう支援している。外食やドライブ、イベントを企画し楽しみを持って生活していただけるよう心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者のご希望に沿って外出支援を行っている。近隣の外出以外にもご入居者・家族と相談しながら外出の支援を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約半数の利用者は、車椅子での外出であるが、買い物なども兼ね利用者の希望に応じて外出を支援している。</li> <li>・年4回の全員揃っての外出し、また利用者の希望に応じて墓参りなどの外出支援も行っている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホーム管理だが、ご家族様に同意を得たうえでお金を自己管理していただいている。自己管理が難しい方はスタッフが管理し、支払いをご自分でしていただくなど工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援をしている。(家族に入居時確認して)		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が不快になるような過度の刺激は排除している。季節に応じた飾り付けを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木目調の落ち着いた食卓や椅子を使用し、利用者が落ち着いて過ごせるように配慮している。</li> <li>・カラオケセットで利用者によっては毎日カラオケを楽しんでいる。</li> <li>・温度や湿度にも気を配り、利用者のそぶりや職員の体感などで温度や湿度調節を行なっている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルセットを置きお好きなお客さまのところで過ごしていただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具を持ってきていただいている。部屋に家族の写真やご本人お好きなものを置いて安心してもらうよう心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコン、クローゼット、照明以外は、利用者が入居前に使用していた馴染みの家具やベッドを使用している。また、家族の写真、仏壇、加湿器などを持ち込んでいる。</li> <li>・掃除は職員、もしくは職員と利用者が共同で行っている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人一人の力を把握し、過度の支援をせず極力ご自分でやっていただくようにしている。		

事業所名	クロスハート南・横浜
ユニット名	B棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人理念は事務所に掲示し、月1回のミーティングにて理念や経営計画書を読み合わせを行い理念を共有できるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。去年に比べて地域の行事へ参加したりすることで地域の一員として協力できることは行なっている。また、逆に地域の方から色々とサポートをしてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催している。また、今後、認知症サポートキャラバンの養成講座を開く予定。管理者がその為の資格を取得したので、今後、行なっていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催をしている。その中での意見をサービスの改善に役立てている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ定期的にお誘いをしている。市町村の都合で参加がないのは残念だが行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修の中で身体拘束の基礎知識についてスタッフに対して教育をおこなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の中で虐待の基礎知識についてスタッフに対して教育をおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会などがあれば管理者、スタッフが参加を行なえるようにする。以前、管理者が成年後見人の研修を受講したことがある。入居されている家族から相談があった際には後見人制度の存在についてお伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をおこなっている。わからないことはいつでも相談できるように相談窓口がもうけてあるので、いつでも確認できるよう体制が取れている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情、相談窓口を設けている。 家族会の開催などにより直接話しをできる機会を設けている。また、玄関脇にご意見箱の設置を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームミーティングやユニットミーティングにおいてスタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時の面接で、個々の職員の状況を把握している。福利厚生を充実させ職場環境の整備に努めている。ソウエルクラブの加入など。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を積極的に勧めている。そのための業務調整を行っている。新入職の職員に対してはOJT制度を導入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市のグループホーム連絡会の参加をしている。情報や意見の交換を通してサービスの質の向上に勤めている。また、定期的に発信される研修に職員が参加をしている。交換研修など。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に必ず訪問調査を実施し、不安や要望をお聞きしている。またサービス開始に当たっては、無理なくスタッフや他のご入居者との関係が構築できるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学やご相談の段階で困っている事や要望などをお聞きし答えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご見学やご相談の時に現在の状況や困っている事をお聞きし、当ホームで行える支援や、他のサービスの説明や情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と家事や買い物、外出等を行う事により馴染みの関係を築いていく。また談話やレクレーションを一緒に行うことで、関係をより深めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時やイベントの時にご入居者と御家族だけの時間を設けるようにしている。また、常にご状態の報告をし支援についての相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅への外出やお墓まいり、馴染みの方の訪問などご家族様の同意を得られれば可能な限り対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションのとり易い席の配置やレクリエーションなどで無理なくご利用者同士の関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームを訪問していただけよう声を掛けている。また他の施設への入居へ向けての支援もしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護サービス計画書作成時にご本人、及び御家族の意向を確認し希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に「暮らしの情報シート」を家族に記入して頂き、生活歴や嗜好、生活の状況について把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居してからの一定期間は「24時間生活シート」を記入し状態の把握をしている。日常の生活を通じて、個々の御入居者のご状態や有する力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お1人につき3ヶ月に一度（必要時は適宜）ケアカンファレンスを実施し、ご入居者や御家族、職員、その他関係者の意見を参考に介護計画書の作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「生活の記録」「健康状態の記録」「申し送りノート」などの記録を活用し、スタッフ間の情報共有や介護計画の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に施設で対応できる範囲では可能な限り対応できるように留意してサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物、地域のボランティアグループの受け入れを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の往診が1ヶ月に2回あり、書面及び口頭での報告や話し合いを行い適切な医療が受けられるよう支援している。嘱託医以外（入居前からのかかりつけ医）の診療を受けている方もあり。 家族の同席は自由。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により週1回の訪問看護がある。定期的に日常の御様子を報告し健康管理に役立てている。また、24時間のオンコール体制をとっているのでご入居者に変化があったときは適宜報告、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族を通して、またお見舞いに伺った時などに情報交換、状態把握をしている。退院時には医師との話し合いを行い退院後のサービス提供に活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書内の「容体悪化時の施設対応についてのご説明」にて説明をしている。状態の変化が合ったときには、訪問看護師、医師を交え早い段階から話し合いを行い方針の共有に勤めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームミーティングでの研修や訪問看護師からの指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（内1回は夜間想定）の消防訓練をおこなっている。今年度は地域の方が参加をしていただき、避難誘導を手伝ってもらえた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に対して御家族（ご入居者）に対して個人情報の取り扱いについて説明のうえ書面で誓約をおこなっている。スタッフに対しても個人情報の研修を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でスタッフだけが決めるのではなく利用者様が意思決定できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールはあるが、ご入居者の状況を優先してケアを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に沿って理美容のサービスの提供。 外出できない方は、ホームスタッフ（理容師免許有り）がホーム内で理美容のお手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的なイベント食の計画を行ない、利用者様に食を楽しむイベントの提供ができるようにしている。また、調理、後片付けなどもその日の状態に応じて一緒におこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好や状態に合った食事を提供している。食事量が少ない方に補食を提供したり水分量の把握をしたり必要な栄養、水分量が確保できるよう努めている。定期往診時に栄養士さんが一緒に来て頂けるのでアドバイスを取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は食後の口腔ケアをおこなっている。隔週訪問歯科診療があり、歯科医師を連携をして口腔内の清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方は排泄表をつけ、排泄パターンの把握に努め、できるだけ失敗せずトイレで排泄ができるように支援している。その他の方は適宜声掛けをし確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や腸内環境を整える食材の提供をするなど工夫している。水分摂取の苦手な方にゼリーを用意したり、本人の嗜好を探りながら、水分が摂れるような工夫をしている。また排泄表で確認を取りながら下剤の使用をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上は入浴していただくよう心がけている。入浴時間などは時に決めず、支度の出来るときに声掛けを行いご自分の意思で入浴していただけるよう努めている。入浴が嫌いな方にはその人にあった声掛けをする。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者のペースに合わせて誘導、声掛けをおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成しいつでも確認できるようにしている。特に副作用の出やすい薬などは申し送りやミーティングで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を活かした役割を持っていただけるよう支援している。外食やドライブ、イベントを企画し楽しみを持って生活していただけるよう心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者のご希望に沿って外出支援を行っている。近隣の外出以外にもご入居者・家族と相談しながら外出の支援を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホーム管理だが、ご家族様に同意を得たうえでお金を自己管理していただいている。自己管理が難しい方はスタッフが管理し、支払いをご自分でしていただくなど工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援をしている。（家族に入居時確認して）		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が不快になるような過度の刺激は排除している。季節に応じた飾り付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルセットを置きお好きなお客さまのところで過ごしていただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具を持ってきていただいている。部屋に家族の写真やご本人お好きなものを置いて安心してもらうよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人一人の力を把握し、過度の支援をせず極力ご自分でやっていただくようにしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

クロスハート南・横浜

作成日

H24年 2月16日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	これまでに終末期を迎えたケースはないが今後に備えてしっかりと対応ができるようにする。	スタッフ全員にターミナルケアとは何か！と理解してもらう。	ターミナルケアについてスタッフに対して内部研修を実施する。必要に応じて外部で開催される研修にも参加をする。	H24年4月までには研修を実施する。
2	35	備蓄に関して基本的な食料品、懐中電灯、毛布など基本的なものはあるが、オムツや、生活用品なども見直して検討したほうが良い。	法人の防災委員会と連携をとりながら、いざというときの備蓄ができるように対応する。	法人の防災委員会で現在、追加の備蓄品の準備をしている。法人内の防災委員会の設置とマニュアルの整備を行う。	H24年度上半期を目途に行なっていく。
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。